

研修会報告

2021年12月8日

文責：加賀 淑子

研修会テーマ 「だからこそ知っておきたい凝固検査」

開催日時 2021年11月27日(土) 13:00～15:00

会場 Zoomを用いたWeb開催

司会 東北医科薬科大学病院 加賀淑子

仙台医療センター 伊東貴美

生涯教育点数 専門20点

参加者 62名(講師・実務委員 7名含む)

講演Ⅰ「凝固検査に影響を与える影響について」

ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社 澤井敦子先生

講演Ⅱ「知っているようで知らないクロスミキシング試験の原理と基礎」

新潟大学医歯学総合病院検査部 松田将門副臨床検査技師長

内容

今回の研修会は、「だからこそ知っておきたい凝固検査」をテーマに開催した。

講演Ⅰでは「凝固検査に影響を与える影響について」と題し、検体の採取や取り扱いにおいて検査結果に与える要因、試薬架設時の注意などを分かりやすくお話いただいた。試薬架設した場合に試薬温度が装置内試薬保管庫の温度に到達しない場合はデータの変動要因となったり、試薬を小分けする際はフッ素コーティングがされていないガラス容器を使用してはならないなどルーチン担当者が知っておくべき内容であり、ルーチン業務に役立つ内容であった。

講演Ⅱでは「知っているようで知らないクロスミキシング試験の原理と基礎」と題し、クロスミキシング試験がどのような検査なのかに始まり、検査実施時の注意事項や結果の解釈に関する注意点まで詳しくお話いただいた。クロスミキシング試験を行う場合はヘパリンやワルファリンなど抗凝固薬使用の有無確認や残存血小板数が $1\text{万}/\mu\text{L}$ 以下の検体を用いるなど、検査前のプロセスが大変重要である。クロスミキシング試験を行っている施設では数値指標を用いている場合でも結果の解釈に悩むことがあり、縦軸のスケールを変更して凝固時間をプロットすると凝固時間が補正されているのかが分かりやすくなるなど、今後クロスミキシング試験を行っていくにあたり大変参考になる内容であった。反面、クロスミキシング試験を行っていない施設の参加者にとっては難しい内容であったように考えられる。

今後も日常の凝固検査の参考や手助けになるような研修会を開催していきたい。